教員地域貢献活動支援事業（協働型）

（平成 27 年度インキュベーション型）

医療領域における「広告医学」の実践と普及

提 案 者 ▶ 株式会社電通
研 究 者 ▶ 医学部 医学科　准教授　武部貴則
国際総合科学部 国際都市学系　教授　鈴木伸治

地域課題

医療・介護・福祉費の急増をはじめ、超高齢化により顕在化しつつある健康・医療課題を解決するためには、予防医学のために参加者のモチベーションを引き出す効果的な取組や、医療情報を生活者・患者により使いやすい形に変換する必要性が高まっている。

課題解決の方法

医師の持つ医療情報に、生活者や患者への伝達速度を高めるデザイン思考を掛け合わせることで、「広告医学」の実践活動を行う。横浜市立大学および附属病院内での活動を中心として、生活者・患者とともに医療者の視点でも医療現場で抱える課題の発見・施策のデザイン・実施・効果検証を一貫して行う。具体的には、これまでインキュベーション型の活動でフィージビリティが検証されたアイデア創発の場「メディカル・デザイン・ハブ」の組織化と、そこからのプロトタイピングの実践、PR化を図る。

実施内容

4月～ 8月　組織化の仕組みづくりを検討

7月～11月　附属病院内の医療者と医療スペースを対象としたヒアリング調査・オーディット調査「クリエーティブ回診」を実施し、病院内での課題を顕在化させ、デザイン領域で開発可能な4プロジェクトを設定した。また広告医学におけるデザインの設計思想の啓発・普及を目指す広告医学研究会を立ち上げ・実施した。

12月～3月　課題に対応した4プロジェクトの立ち上げを行い、小児科の患者に向けた「つけたくなるマスク」「小児患者診察の際のQOLをあげるデザイン白衣」をデザイン、製造した。また、入院患者を対象とした双方向型コミュニケーションIoTツール「ナースバード」ロボットを実装し、病院内（主に小児科）で利用可能な状態にするためにプログラムの精緻化を行った。更に、臓器移植への啓蒙プログラム「セカンドライフトイズ」を日本で初めて病院内に設置し、入院患者・来院者を対象にした展示を実施し、啓蒙につなげた。この様子はNHK、神奈川新聞などで取り上げられた。また、広告医学研究会において、広告医学における設計思想の根幹における「ライフデザイン演繹学」という新規学問体系を考案し、発信した。

成果・効果

附属病院が主体となって患者が抱える課題を発見し、解決するプロダクトを開発・提供することで、「地域・地元の患者視点でQOLを重視した診察を行う病院」としてのアイデンティティを具現化し、理解を促進することに寄与した。また、神奈川県下における複数回に渡る広告医学研究会の開催を通じ、広告医学の思想普及並びに類似事例の創発に貢献した。

さらに、プロジェクト期間中に実装を行ったセカンドライフトイプロジェクトについては、NHKや神奈川新聞をはじめとしたメディアによる報道を通して、より広い範囲への病院のレピュテーションアップに貢献した。

今後の課題と展開

本事業で開発したプロトタイプの附属病院への実装および横展開（地域の他病院など）を目指す普及方法の探索。クリエーティブ回診などのプログラム一般化を通じた、患者が抱える新たな課題の掘り起こしと、実装を継続して行うプラットフォーム作り。

広告医学研究会を通じた、医療領域における「ライフデザイン演繹学」の普及・定着化。